

## 1. 魚類調査結果

## 1. 魚類調査

### 1.1 魚類調査結果の概要

#### (1) 確認種

今回とりまとめを行った 31 水系 31 河川で確認された魚類は 18 目 74 科 272 種でした。エビ・カニ・貝類は、東北地方の北上川 1 河川で調査されており、5 目 13 科 20 種が確認されました。

魚類の確認種数が最も多かった一級河川は、四国地方の渡川の 98 種でした。二級河川では、中国地方の錦川の 53 種でした。

#### (2) 重要種

魚類では、今回とりまとめを行った 31 河川で確認された重要種は、天然記念物に指定されているアユモドキや絶滅危惧 A 類に指定されているニッポンバラタナゴ等 77 種でした。エビ・カニ・貝類では、今回とりまとめを行った 1 河川で確認された重要種は、レッドリスト準絶滅危惧に指定されているオオタニシ等 4 種でした。

魚類の重要種の確認種数が最も多かった河川は、九州地方の菊池川の 23 種、次いで中国地方の吉井川の 18 種でした。なお、菊池川で確認されたエツの記録は貴重であり、何らかの保全対策が必要であると考えられます。

#### (注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省 編「レッドリスト」掲載種 (2006：その他無脊椎動物、2007：汽水・淡水魚類、貝類)

#### (3) 国外外来種

魚類では、今回とりまとめを行った 31 河川で確認された国外外来種は、ニジマス、オオクチバス(ブラックバス)、ブルーギル等 14 種でした。エビ・カニ・貝類では、今回とりまとめを行った 1 河川で確認された国外外来種は、サカマキガイ、アメリカザリガニの 2 種でした。

魚類の国外外来種の確認種数が最も多かった河川は、中国地方の吉井川、中部地方の庄内川の 7 種、次に関東地方の那珂川、九州地方の菊池川の 6 種でした。地方別では、北海道地方で 2 種と最も少なく、関東地方、中部地方、中国地方で 8 種と最も多く確認されました。

#### (注) 外来種について

外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動などを介して意図的・非意図的に持ち込まれた動植物をいいます。海外から日本に持ち込まれたものだけでなく、国内の種であっても島など独自の生態系を持つ場所に、他の場所から持ち込まれたものは外来種(国内外来種)となります。

ただし、本資料における国外外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、国外外来種の選定には、資料 I.6 (30～31 ページ) および 32 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。